



心理教育・家族教室を始めたのです。
Q ということは、全国でも先駆的な取り組みであったわけですね。
村井 かなり先駆的だったと思います。同じアンケートの中で病名告知についても聞いたところ、告知していた医師は約2割でした。これは、当時の告知率の全国平均と同じくらいです。つまりそれくらい、精神分裂病はまだ「告知しにくい、怖い病気」で、心理教育へのハードルも高かったのです。

家族を「治療チームの一員」にする

Q 実際にいま「家族教室」を担当されている大月先生

に、具体的な進め方についてご説明いただければと思います。

大月 当院の場合、家族教室には三つのカテゴリーがあります。そのうち私が担当しているのは「急性期」いちばん最初の段階で開く家族教室で、それを「ファミリー・グループ」と名づけています。いわば「入門編」ですね。二つ目が、何回か入院をくり返している方とか、通院が長くなっている方とそこご家族に対する家族教室。そして三つ目に、患者さんのご家族が主体となつて運営する「家族会」です。

Q 「ファミリー・グループ」で行う心理教育の中身は？

大月 初回入院、もしくはそれに近い状態の患者さんご家族に、統合失調症についての正しい知識を持つてもらふことと、ご家族の不安を軽減することが主眼です。平均すると、毎回3〜4組のご家族が参加されますね。2回がワンセットになっていて、初回は私が担当して疾患全般についての基礎知識を教え、2回目は臨床心理士が担当して家族の対応の仕方を教えるという構成になっています。

Q ファミリー・グループに参加すると、ご家族の様子が変わってきますか？

大月 そうですね。告知を受けた段階ではご家族の心は混乱の極みで、医師の言葉もほとんど頭に入りません。それに最近では、ネットに氾濫しているいいかげんな情報に触れたりして、よけい不安が増してしまうことも多いのです。そういう不安を解消してあげられますし、同じように統合失調症の患者さんを抱えた別のご家族と一緒に受けることで、仲間意識も生まれます。統合失調症の治療は急性期の対応が最も大事ですから、その時期にご家族に安心感を与えられる意義は大きいと思います。

Q 担当スタッフは、精神科医と臨床心理士の2人ですか？

大月 いいえ。当院の場合、薬剤師、精神保健福祉士、作業療法士、それに病棟の看護師も参加します。毎回7〜10人程度のスタッフが参加するので、ご家族よりスタッフのほうが多いこともあります（笑）。家族教室をやっている病院は多いですが、当院のように参加スタッフが多いところは少ないと思います。

村井 先ほどの「EE」の話は、ご家族にかぎった話ではありません。病院のスタッフが患者さんに対して「高EE」状態になって、悪影響を与えてしまうこともあるんです。でも、多くのスタッフがファミリー・グループに参加することによって、「低EE」な対応を学ぶことができるんですね。つまり、スタッフ教育の場にもなっているわけです。



家族どうしの
つながりが大きな力に
なることもよくあります。